



安心とつるおの「下町」の手をめぐりて

防災 まちづくり 阪版

発行の寺言問を防災のまちにする会

平成7年4月1日

阪神大震災は、とてもひとつごとと思えません。お亡くなりになった方に対し慎んで哀悼の意を表します。

今号では、彼らの命、そして今もなお不自由な生活を強いられている方たちの苦勞を無駄にしないよう、一寺言問地区に住む私たちの視点で震災を特集します。



朝日新聞より



住民防災組織
渡辺長太郎さん
(堤通一丁目)

「このあいだ、向島消防署が町会の役員や町会の会員、それから消防団員に行ったアンケート結果を見せてもらったんだけど、——いつ東京は大地震に襲われるか?という内容の問いに対しては、4割の人が3年のうちにおこるのではないかって答えていましたよ。それから、地震で一番怖いのは火事だという結果も出ていました。」

神戸の様子を見ると、震災時の火災に対しては、自分のまちは自分で守るつもりでないといけないと思いました。うちの町会にも、住民防災組織、"はできていますよ。でも、町会内に消防団に入っているような消火活動に慣れていないから、断水時の火災に備



この度の震災で...
阿久津久子さん
(向島五丁目)

「この度の震災で避難生活をしている方たちがお気の毒でなりません。体育館などの避難所では、せめて家族ごとに簡単な間仕切りをつくってあげることほできないのでしょうか。」

子供さんのいるご家族は、周囲への遠慮なども大変でしょうし、お年寄りや女性の方たちにとっては、プライバシーが全く保たれないのは耐えられないことだ



連携
大場森夫さん
(東向島三丁目)

「阪神大震災で学んだ教訓を、やがて起こるだろう東京直下型大地震と想定して、東向島三丁目わが町の対策を考えてみると——いちはやく、宮元町会対策本部を百花園に設営して援助体制を整えたいですよ。活動の核となるのは町会の役員が理想的。町のことを知り尽くしたり、ダーの存在がいかに重要か、神戸市の真野地区を見て思います。ことにお年寄りの多い墨田区では、隣近所でささえあって生きぬいていく姿勢、たくましさや、気力が必要になってくるから。」

町会のあるべき姿勢をこのようにみる大場さん。先日開かれた連絡会(まちかどニュース①参照)にふれ、隣の町会や区民消防隊、消防団、消防署、区が確認し合い、より強力な連携体制づくりを約束したことをたいへん評価しています。「自分たちの体制を整えていく上で、区、都、消防、保健所、国などへ質問したいことが山ほどあります。それから、見直しているという防災計画も早くみたいですね。」



提案
市田貞夫さん
(向島五丁目)

本所消防団第4分団の団員の市田さん。「阪神大震災では、家が壊れて押しつぶされて死んだ方が多かったですよ。この向島地区では、やはり地震の後の火災が一番怖いのではないのでしょうか。」

テレビ報道では、せっかく消防車が来ても肝心の水が出ないという状況が報じられました。阪神地区では、消火栓や貯水槽の設備が貧弱だったように思います。

一つ提案があるのですが、私たちの地区では隅田川全体をそっくり、貯水槽として利用する方法を考えたらどうでしょう。二百メートルおきくらいに、揚水(水を吸い上げる)ポンプを設置しておけばよいのです。そこから、現在ある貯水槽へ次々とホースをつなげば、かなり広い地域に、水がとどくのではないかと思います。」

幸い最近では、かみそり堤防をスーパー堤防化する計画が進められているので、都や国が前向きになれば、これはきっと実現できると思うのです。」

いても非常時に使いこなせるか心配です。高齢の方が多いことを考えると・・・」

*住民防災組織
協力から生まれる大きな力で自分たちのまちを守る——住民防災組織は災害時に必要なサービス（情報収集、消火活動、救出救護、給食給水等）を住民自らが分担して行う組織です。一寺言問地区では町会が母体となって組織されています。



地震の恐ろしさを伝える
則武勝商さん
(東向島一丁目)

「今回の震災をみて強く思ったのは、地震の恐ろしさは体験した者から子、そして孫まで伝えることが大切だということ。地震の起こる間隔をみると、大地震を経験せずに一生を終わる世代もいる。私は空襲は体験したけれど、大正の大地震は体験していないし・・・。地震とはつきあっているかなければならないのだから、体験を伝えていくことは大切だと思うよ。それからもうひとつ、空襲で知ってはいたけれど、道路は重要だということ。道路を広げるのはなかなかできないことだけだね。」



予想されること
田村幸司さん
(東向島一丁目)

田村さんは向島消防団第3分団の団長として活躍されています。「大地震が起こったら、一寺小学校の前にある第三分団機材庫が、この地区の消火活動の拠点になると思います。機材庫には、ポンプ2台をはじめ、消防に必要なものがあるし、無線で町会や消防署へ連絡をとることもできる。」

震災時の消火活動では、断水で消火栓は使えないものと考えられていますから、小学校や保育園、公園の防火水槽がもつことも大切な消水利になります。それから、ここは、水戸街道や、明治通り、墨堤通りといった大きな道路以外の道は家屋の倒壊などで寸断されて消防自動車が出動できないことも考えられますから、そのときは、消防団を中心に、地元の方々の協力で火を消し止めなければなりません。」

*消防団
消防団の分団はの担当区域で単独、あるいは消防署と連携して活動にあたります。ただし、状況により担当区域外へも出場します。



消火活動
横山幸男さん
(東向島一丁目)

横山さんは東向島一丁目消防隊のメンバー。結成当初からこの区民消防隊に参加していたそうで、20年の経験の持ち主。はじめは10名で構成されていた消防隊も今は7名で、年齢層も高くなってきているそうです。

「震災時に火災が発生したら、あずかっているポンプを使って、あすなる公園の防火水槽や一寺小のプールから水をポンプアップして放水することになると思います。ポンプは2人もいたら十分に運ぶことができますよ。でも、今回の地震のような事態は経験のないことだから、やはり心配な面がありますよね。夜に起こった場合も考えて、作業に十分な明るさのある照明器具が必要だと思います。それから、これからの訓練は、ちょっと内容をかえてやっていくことも必要ですよ。」

それと、地震は火災をひき起こすだけでなく、被災後の生活に長く影響を与えるのですから、備蓄などを考えておかなければいけないと思います。」

高田製薬跡地 検討中⑧

1月25日、寺島集会所にて、第2回地元説明会が開かれました。近隣からは、14名の方が参加されました。

まず、高田製薬跡地の広場と建物の設計を担当した西島さんから図面の説明があり、そのあとに近隣の方から自由な意見をいただきました。意見の中には、公共の場ができることでもこれまで以上にたずらがえるのではないかという心配の声が多く聞かれました。また、防火水槽を設けてほしいといった意見もいただきました。



第2回地元説明会

編集後記

いつ来るか分からない地震災害を想定して活動している一言会は、ちょっと奇人変人っぽい目で見られたこともありました。

阪神地区の大災害で、一言地区がマスコミの注目を浴びたりして、なんか防災先進地区でもあるかの感があります。

しかし、本当にそうでしょうか。

残念ながら、私たちの向島はまだまだ災害に弱い地域のままです。この度の大震災の被災者の方々に心かななるお見舞いを申し上げますと共に、私たちは、この震災から多くのことを学び取らせていただくことを続けていかねばなりません。

少しだけ見直された一言会の活動に、多くの皆様の関心と、できたらご参加を、この際お願い致しますと思えます。(洋)

会路路地ができて、地域のかたちと人の交流が深まりました。阪神大震災で、あらためて水の大切さを痛感しました。いつも路地裏に水が溜ってあれば良いのですがね。(淑)

災害が起きて、いちばん困るのはお年寄り。南町会では、お年寄りや一人暮らしの方の名簿を作り、各班長さんに配りました。

炊き出しをまちづくりのイベントとしてやったらどうでしょう。高田製薬跡地でやりたいですね。(藤)

営々と築いてきた生活が、一瞬にして崩壊してしまった阪神のかたがたを思うと言葉もありません。一刻もはやい復興を望みます。

一寺言問は、逃げないですまちづくりを目指して、気持を新たに作り直してまいります。瓦版にご意見を寄せ下さい。お待ちしております。(純)

いちごことい

一寺言問/防災まちづくり瓦版

第36号 平成7年4月1日発行

編集/一寺言問を防災のまちにする会・編集局

高原純子・若木菊枝・植竹モト

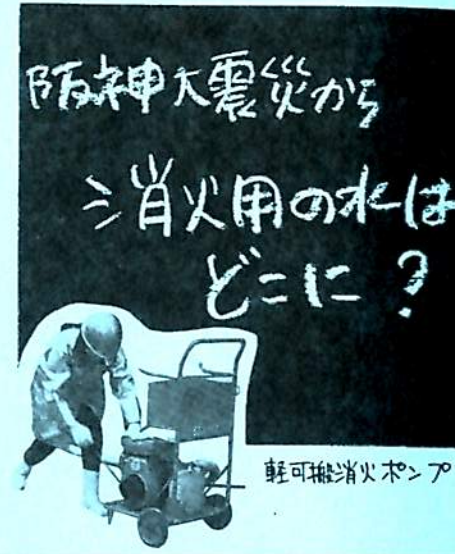
阿部洋一・明間 藤・中村淑子

編集協力/マヌ都市建築研究所

発行/一寺言問を防災のまちにする会・事務局

墨田区まちづくり事業推進部地域整備課内

〒130 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel.(5608)6261



震災時の火災に消防車がかけつけられないとしたら、一刻も早くその場にいる私たちが火を消し止めなければなりません。しかし、わたしたちにはわからないことが多くあります。消火用の水の位置、水を汲みだす方法、汲みだすのに必要な道具の保管場所など……。私たちの地域を守るために、ひとつひとつのことを確認してみる必要があります。

一寺言問地区の消火用の水の位置は下の表のとおりです。お話を伺った向島消防署の斉藤警防課長さんと篠原さんによると、一寺言問地区には3か所にある程度の規模の火を消すことのできる軽可搬ポンプが配置されているそうです。でも、火は小さいうちに消すのが一番。消火器（一寺言問地区の6町会で約二百本の消火器が用意されています）の位置や、使い方を確認しておくのはやっぱり大切です。それから消火活動にあたって危険な状態に陥らないように、住民自らによる消火活動の目安が次のように整理されています。



お話をうかがった 斉藤課長さんと篠原さん

消火段階	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	第5段階
消火の役割	家庭の消火器・バケツによる消火(家庭)	地域配備の消火器によるグループ消火(防災市民組織)	地域配備の小型ポンプによる組織消火(防災市民組織)	消防団ポンプによる消火(消防団)	消防隊による防ぎよ
火災の状態	出火～炎上 [発火から3分くらい]	炎上から天井着火まで [出火から5分くらい]	天井着火から1棟火災 [出火から10分くらい]	1棟から隣棟へ延焼 [出火から20分くらい]	街区火災 (20分～)

※ 建物の構造、内装、使用形態等によって異なるが、おおむね一般的な木造建物の場合を想定

消火活動は、くれぐれも訓練等で身につけた方法にしたがって、自分の身の安全を確認して行ってください。

一寺言問地区の水

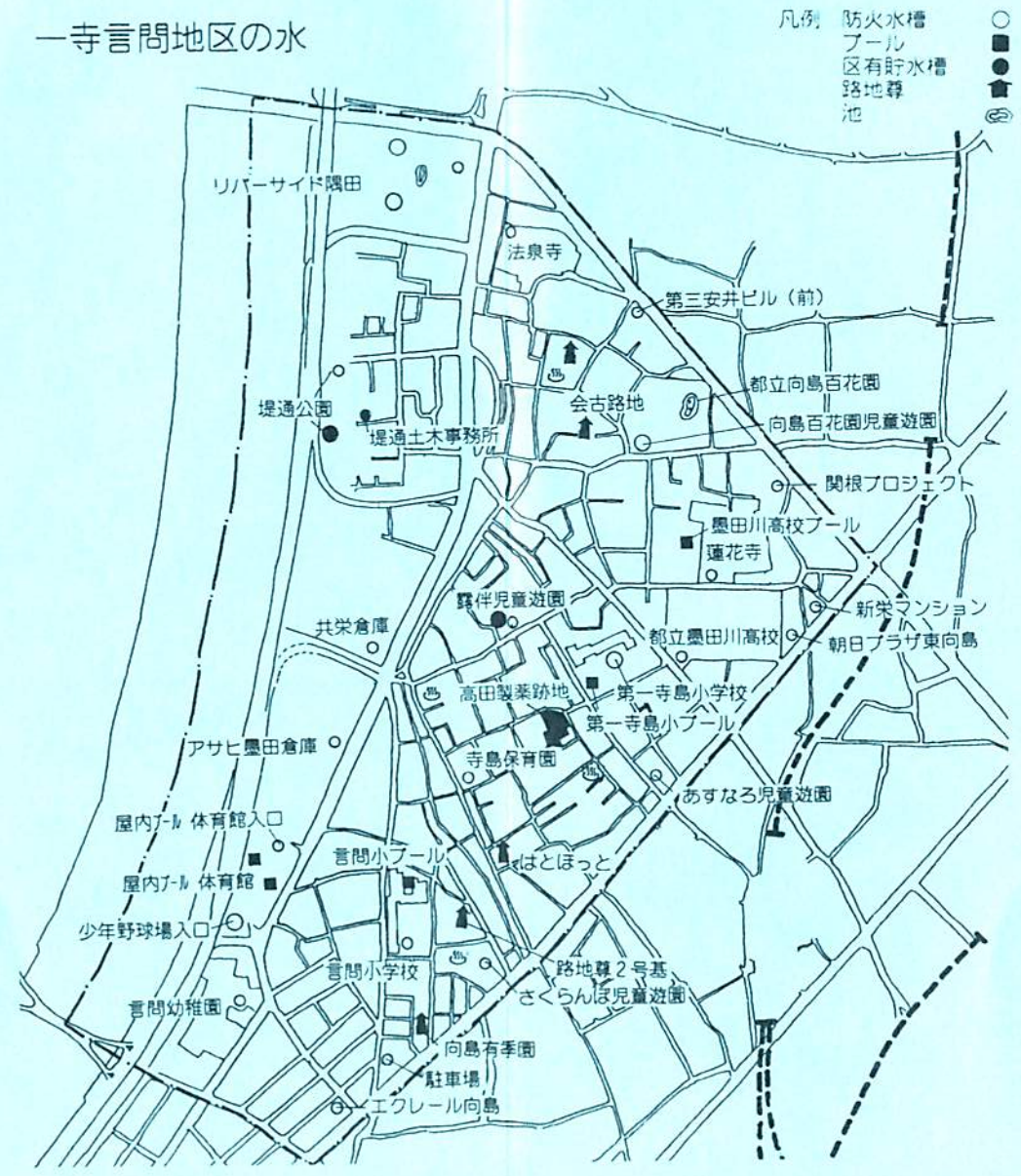


表 一寺言問地区の水

種類	名称	場所	容量	用途	利用方法	管理主体	備考		
防火水槽	言問幼稚園	向島5-4-4	40 ㎡	消防水利	蓋を専用用具で開け、軽可搬消防ポンプ等で揚水 ただし、地中ばり水槽の場合は採水口に吸管を挿入	本所消防署 (以下同じ)			
	少年野球場入口	向島5-5-20	100 ㎡						
	屋内プール 体育館入口	向島5-6-13	40 ㎡						
	アサヒ墨田倉庫	向島5-6-26	65 ㎡						
	エクレール向島	向島5-31-5	40 ㎡						
	駐車場	向島5-33-13	40 ㎡						
	さくらんぼ児童遊園	向島5-38-7	40 ㎡						
	言問小学校	向島5-40-14	40 ㎡						
	共栄倉庫	堤通1-1	40 ㎡						
	堤通公園	堤通1-14	40 ㎡						
	リバーサイド隅田	堤通1-19	100 ㎡						
	露伴児童遊園	東向島1-7-11	40 ㎡					向島消防署 (以下同じ)	地中ばり水槽
	第一寺島小学校	東向島1-16-2	100 ㎡						
	寺島保育園	東向島1-23-10	40 ㎡						
	あすなる児童遊園	東向島1-34-5	40 ㎡						
法泉寺	東向島3-8-1	40 ㎡							
第三安井ビル(前)	東向島3-17-7	40 ㎡							
向島百花園児童遊園	東向島3-18-26	100 ㎡							
関根プロジェクト	東向島3-20-10	40 ㎡							
蓮花寺	東向島3-23-17	40 ㎡							
新栄マンション	東向島3-38-15	40 ㎡							
朝日プラザ東向島	東向島3-37-7	40 ㎡							
都立墨田川高校	東向島3-34-14	40 ㎡							
プール	屋内プール 体育館	向島5-6-13	300 ㎡	消防水利 (飲料水として利用)	吸水口へ吸管または、消防署のポンプ車や、軽可搬消防ポンプ等で揚水	区			
	言問小プール	向島5-40-14	530 ㎡						
	第一寺島小プール	東向島1-16-2	300 ㎡						
	墨田川高校プール	東向島3-26	190 ㎡						
区有貯水槽	堤通土木事務所	堤通1-9-8	40 ㎡	* (平常時：消防水利 * (災害時：飲料水)	蓋を専用用具で開け、軽可搬消防ポンプ等で揚水	区	* 地域防災計画で消防水利として扱っている		
	堤通公園	堤通1-8	100 ㎡						
	露伴児童遊園	東向島1-7-11	100 ㎡						
路地蔵	路地蔵2号基	向島5-39-4	3 ㎡	生活の水 消火用に使ってももちろんOK	手押しポンプにて揚水	一言会	雨水利用		
	向島有季園	向島5-35-15	9 ㎡						
	会古路地	東向島3-15-13	10 ㎡						
	はとほっと	東向島1-25-1	3 ㎡						
池	リバーサイド隅田	堤通1-19	190 ㎡	消防水利として指定					
	都立向島百花園	東向島3-18	200 ㎡						

地中ばり水槽とは、ビルの基礎ばりの部分に設置された防火水槽のことで、ビルの協力で設置がすすめられています。また、協力ビルへは東京消防庁から一部補助金を交付しています。

以上の消防水利は、消防署のポンプ車、消防団の可搬ポンプ、そして訓練をすれば比較的簡単に使える軽可搬ポンプで、水を汲み上げるのが効率的です。この水源からみんなでバケツリレーをすることになるかもしれません。その他の水源として、池、河川、協定のある受水槽、井戸等があります。ただし震災時であっても断水してはならない消火栓の使用は可能です。(以上は墨田区防災課および向島消防署にヒアリングの上まとめました。)

まちがど 阪神 ニュース

ここでは、兵庫県南部地震発生後の一寺言問地区の動きを紹介します。

①町会合同で防災についての話し合い始まる

「大きな震災に襲われたときは自分たちでどうにかなくては・・・」

2月12日、向島消防団第三分団、東向島一丁目区民消防隊、東向島三丁目区民消防隊の呼びかけで、東向島一丁目中町会、東向一南町会、東向島宮元町会、堤通一丁目町会の4町会と、区そして消防署の方をまじえて、防災についての話し合いが始まりました。

②見直しは身近かなことから

五東町会では、地震の備えについて、身近なことから見直そうと、このようなアンケートが行われました。

向五東防災アンケート

実施 平成7年3月
墨田区向島五丁目東町会

本年1月17日、阪神淡路地区において震災7の烈震がありました。これは、かつての関東大震災を超える規模であったと伝えられます。その脅威に恐れおののいたばかりではいられません。どんな災害があろうと、私たちに家族を守る責任があるからです。かつての震災や戦災にも、先人達は常に臨み立ち上り、災禍を乗り越え、今日を築いてまいりました。この災禍を乗り越え、被災者の方々に大変お気の毒なことにありますが、新たな創意と工夫を加え、今回の被災者の方々に大変お気の毒なことにありますが、新たな創意と工夫を加えていくことが、私たちに科せられた義務の一つかと存じます。向島五丁目東町会では、防災活動の一環として、世帯主の方を対象に、以下の「防災アンケート」を実施し、町内の防災態勢を確保すると共に、安全意識の高揚を図り、町会員の皆様の安全にやささかなりとも役立つ町会を目指しております。どうぞよろしくご協力をお願い申し上げます。

アンケート1
ご家族の構成をお知らせください。

性別	年 代			選 別
	A	B	C	
男 女	A	B	C	
男 女	A	B	C	
男 女	A	B	C	
男 女	A	B	C	
男 女	A	B	C	
男 女	A	B	C	

※「性別」欄は、○を付けてください。
※「年代」のAは0歳から13歳、Bは13歳から70歳、Cは71歳以上です。
※お一人では選別ができません。必ず「世帯」の欄に○をつけてください。
※このアンケートは、町会防災態勢を確保するための調査です。ご協力をお願いします。

アンケート2
毎月1日が「防災の日」であることをご存知ですか。
()はい ()いいえ

アンケート3
地震を感じた時、次の5つの行動は、どの順序でおこなうことが正しいと思いますか。番号を記入してください。

- () ざぶとん・本などで頭を守る。
- () 出口(ドア・窓)を開け、つつかえをする。
- () ストップ・ガス器具・電気器具のスイッチを切る。
- () 屋内の家族の安全を確認する。
- () 避難する時は、ガス・電気の元せんを切る。

アンケート4
私たちの地区の「緊急避難地」について2つお尋ねします。
①避難地が「自衛防災団地」であることを、ご存じですか。
()はい ()いいえ
②あなたやご家族は、非常時に自衛防災団地まで避難できますか。
()はい ()いいえ

アンケート5
消火器について3つお尋ねします。
①おたくには、消火器がいくつありますか。
() 1つ () 2つ () 3つ以上
②あなたは、いざという時、消火器が「すぐ」使えますか。
() 大丈夫 () 自信がない
③消火器は、ここ5年以内に、購入または詰め替えされたものですか。
() はい () いいえ

アンケート6
おたくの非常持ち出し袋に入っているものに○を付けてください。
() 水、() 食料、() 携帯ラジオ、
() 健康保険証、() 印鑑、() 現金通帳類
() 軍手、() タオル、()

③募金活動が行われました

各町会で、被災地の方に向けて募金活動が行われました。一寺言問地区の6町会で二百万円を超える義援金が集まりました。



阪神大震災から
震災時は小学校がまちの中心

墨田区では、地震時に飲料水・食糧・情報を各住民に的確に届けるために、小学校区単位で「防災活動拠点会議」を組織しています。災害時には各小学校が避難場所となり、また飲料水・食糧・情報を配布、連絡する拠点にもなります。飲料水は、備蓄、小中学校のプールや貯水槽の濾過、応急給水槽などにより各小学校で給水活動を行うことになっていきます。

食糧は、主食については区・都の防災備蓄倉庫、政府・食糧庁の倉庫などに1週間分が用意されており、副食やミルクなどは協定を結んでいる販売業者から購入することになっています。やはり、各小学校で配布されることになっています。また、各小学校は区と無線で結ばれており、各小学校には区からの情報が直接入ることになっています。このように、墨田区では災害時の対応活動は各小学校を拠点に、「防災活動拠点会議」が中心となって展開されることになっています。一寺言問地区でも、第

ついに... 神や市長田区真野地区 地震対応に 住民まづくり団体が 大活躍

阪神大震災を象徴する被害のひとつである大規模な火災の発生した神戸市長田区の一部に、四半世紀に亘って住民による「まちづくり活動」を続けてきた真野地区があります。一寺言問地区と同様に、町工場や木造住宅が密集し、路地が多い地区で、「まちづくり活動」を通して一言会とも交流があるまちです。真野地区でも、今回の地震では建物などに大きな被害を受けました。一部では火災もありました。しかしコミュニティ住宅(集合住宅)など、これまでのまちづくりの成果は無キズだったようです。何よりも地震直後から住民が協力しあって災害対応にあたったことが、被害を最小限に抑えたようです。地区内の工場のポンプを使って川の水を組み上げ、住民の手だけで火災を消し

止めたそうです。被災生活についても、まちづくり協議会の会長さんをリーダーに地区内の小学校に拠点を構え、住民自らの手で救援物資を手配・運搬して各住民に配布したそうです。地区内の15町会や住民のひとりひとりがお互いの生活を支えあってきたことがうかがえます。真野地区をお見舞いに訪れた一言会副会長の徳永さんは、「まちの力強さを感じた。まちづくりを通して日常的に育ててきた住民同士の交流があったから、災害が起きて混乱が少なく、苦しくてもみんなで協力しあいながらやっていけるんだと思う。災害の時に一番強いのは、日常の住民同士のコミュニティなんだ」ということが改めてわかった。」と感想を語っていました。一寺言問地区を地震が襲う日に備えて真野地区の力強さを見習うために、まず日常の住民同士の交流を大切にしながら、一寺言問地区の「まちづくり活動」をさらに力強いものにしていく必要があります。

*応急給水槽
震災時は地域の浄水場・給水所が給水拠点となりますが、これらと離れている地域には、その代替として応急給水槽という配水本管に連結された給水槽が設けられています。